

次世代インフラを支えるのはバルブ

配管の中を流れる水やガスなどを「止める・流す・調整する」装置であるバルブ。水道の蛇口やガスの元栓などの身近なものから、工場や発電所、ビルや住宅設備まで私たちの生活や産業を裏側で支えている。次世代のインフラの要ともなるバルブを扱う180社以上の会員企業を擁する日本バルブ工業会。西岡利明会長に業界の使命と展望を聞いた。

失われた30年といわれたデフレ経済が終わり、社会は今、インフレ経済へと大きくシフトしています。昭和元年（1926年）から起算して昭和百年（2025年）という節目を経て、私たちは商品づくりや供給の在り方について大きな方向転換の時期にきています。

原材料費の高騰や物流コストの上昇は個社の企業努力だけで吸収できる範囲（はんちゆう）を超えつつあります。当工業会では適正な価格の見直しやガバナンス強化を支援し、会員企業が健全な経営を維持できるように情報収集と共有を徹底しています。

この難局を社会の進化とともに変わる好機と捉え、業界が一丸となって取り組むべき時だと確信しています。

制御技術強みに国際標準に参画

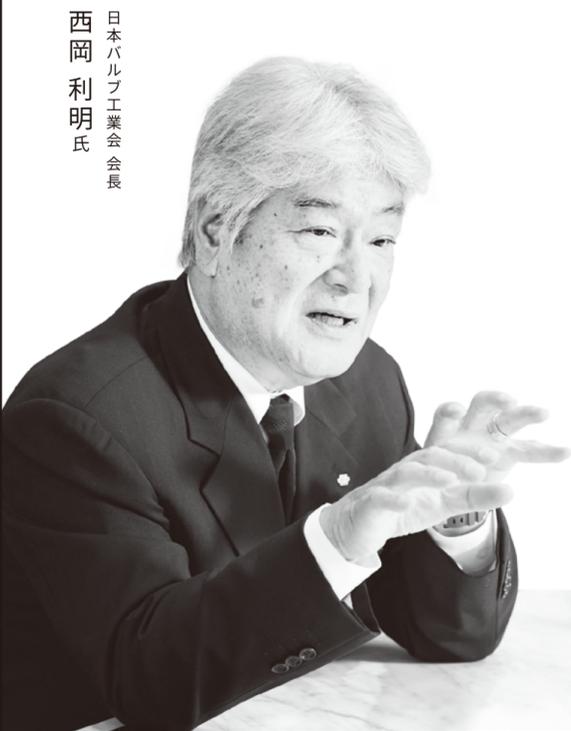
日本のバルブ技術は、世界的に見ても極めて高い水準にあり、水道水をもそのまま飲む衛生環境の維持に貢献しています。加えて宇宙ビジネス、水素エネルギーといった先端分野における「止める・流す」の精密な制御技術は水資源の有効利用や脱炭素社会の実現など地球規模の課題解決にも直結するものです。こうした強みを背景に、当工業会

は昨年、イタリア・ドイツ・フランスなど欧米を中心とした11カ国14団体の国際的な枠組みに参画しています。欧州主導のルール形成に日本が主体的に関与することで日本のメーカーが不利益を被ることなく、かつ日本の優れた環境配慮技術を世界の「共通言語」へと昇華させていく狙いがあります。

創立80周年で新ビジョン 暮らしをより豊かで快適に

現在、当工業会では創立80周年に向けたビジョン「V80」を推進しています。25年度の「ステージ1」ではサステナビリティの追求や次世代人材育成、認知度の向上、業界ネットワーク・産官連携の強化による地位向上に注力してきました。

次なる「ステージII」へ、イノベーションを止めません。半導体、データセンター、水素・アンモニア燃料といった成長分野への対応はもちろん、玄関先での手洗い習慣に対応した水栓の提案など、人々の暮らしをより豊かに、快適にする方法を模索します。流体があるところに必ずバルブがあります。社会の進化が複雑になるほど、私たちの役割は重みを増します。そのプライドを胸に、会員のみならず、世界にわたる安定的な発展を支え続けてまいります。



日本バルブ工業会 会長 西岡利明氏



水まわりから、暮らしをデザインする。

SANEI 株式会社 www.sanei.ltd



企画・制作＝日本経済新聞社Nブランドスタジオ 広告



KITZ

流体とともに 未来を創る 挑戦

創業の原点であるバルブから、流体にまつわるあらゆるものに、KITZは“Strong will”で、挑戦を続けます。

株式会社 **キッツ**
本社 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
長坂工場 山梨県北杜市長坂町長坂上条2040
伊那工場 長野県伊那市東春近7130
茅野工場 長野県茅野市金沢5125

KITZ Group
株式会社 清水合金製作所
株式会社 キッツエスシーティー
株式会社 キッツエンジニアリングサービス
株式会社 キッツマイクロフィルター
株式会社 キッツメタルワークス
他、KITZグループ全35社(2025年12月31日時点)

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド「KITZ」のシンボルです。